第百十三號　（一）　明治四十二年五月二十日（木曜日）

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

寄書

自殺に就いて（上）

牧雲子

死は惜むべし、而して免るべからず、蓋し其死に種々あり、夭折するもの、病斃するもの、割腹するもの、縊死するもの、水に溺るゝもの、火に入るものゝ、多種ありて何れも悲惨たるに相違なし、中に老病の二種は佛典尚も之れを四苦の中に數へて、世相の苦患とし給へり、其變死の中に他殺のものは、災難として詮方もなけれど、自殺のものに至つては、豈夫れ自暴の極みたらざるなきか、余は此の如きことを見且つ聞く毎に、心せざるを得ざるなり、如何に憫むべきならずや、然れども此の憫むべき自殺者も、或は國家の犠牲となるとか、又は公事職務に斃るゝならば、此の死や處を得たるものとして、何人も同情を寄するに躊躇せざるなり。

如何なる動機に基因するとしても、自殺と云ふことは、已が忍耐の足らざる、而して又忍耐力を缺くことを、暴露するものにして、短氣は損氣と云ふことを了知せざる過ちに訛せざるを得ざるが故に、同情に値せずと云ふも不可なきが如し、況や彼の忌しき財利とか色情とか、不潔なる事の裏面に伏在するものをや、學あり識あり名望地位ありて、人の模範と仰がるゝ者に於ては、誠に言ふに忍びず、假令其の死態が如何に武士的見事にてあらんとも、思慮なき仕態たることを否定するの資格はなきなり、業すでに精神麻痺し死靈したる上は、最早形體を問ふの必要なし、國家と云ふ重擔を負ふて居ながら、其國本たる身體を無視して妄りに私情に驅らるゝの輕忽なるは、言ふ迄もなきことならん、余は斯かる輕佻の輩を指して、精神病者と稱するなり、否吾人共に世を擧つて精神病者ならざるもの、果して幾人かある、著るしき奇行なきを以て、病者にあらずとするは、甚だ迂遠の論にして、特に人目を驚す程の醜體を演ずる者は、抑も末なり、嗚呼狂を以て狂を許す、能く肯綮に當るや否や。

一つの苦痛ありて、二進も三進も行き難しとて、思ひ窮まつて死を急ぐ、是れ迷倒の甚しきに非ずや、果して死を以て其苦痛を免がれ得らるべきか、若し得らるゝならば石上に蓮華をも生ずべし、譬へば臭い物に蓋をするが如し、唯益なきのみならず、還て臭氣を増さゞるなきか、何ぞ其臭い物を取り除く簡便なるに出でざるや、世の諺に云ふ「死んで花が咲くものか」と、死して以て苦痛を免るゝものには非ず、古人曰く「生は難く死は易し」と、又云く「一死更に再び活せず」と、世間に於ても出世間に於ても、死程大切なる事以なし、然るに其死を輕々に看て、苦痛の葬り場所とするこそ、淺ましけれ、夫れ程決心を要するの窮地に陥りたるならば、何故死せし氣になりて活路を求めざるか、身を捨てゝこそ浮ぶ瀬もある道理、死中に活を得てこそ大丈夫なれ、兵書に之あり、「之れを死地に入れて生く」と、凡そ事窮すれば變じ、變ずれば通ずるの例へ、百尺竿頭に一歩を進めれば、十方國土に全身を現ずる、豈に難事ならんや。

男爵北垣國道氏は四度も卒倒せられたりとのこと、小樽鐵道の尤も困窮せし時、北垣家の財産を悉く打ち出したればとて、株主に到底滿足せしむると能はざるに因り、終に煩悶卒倒されたるなり、其時初めて禪學修行の効能を解し得たりと言ひ居られしなるが、禪學は別とするも、七倒び八起きして、始めて面白き意味を發見するなり。

文苑

●大檢擧●　鷄零

靴音憂々……長火鉢の前に大胡坐を搔きながらゴロ入茶碗で酒を仰つて居つた主人はフト耳を敬てた、同時にソレドサだ、女將は合點、密つと小走りに奥の室へ行かう・・とする那の時早く此の時遲く「コラれかみ白狀しろツ、エヽわも甕もあるか必定此の部屋……」「旦那何を……」内は大騷動女は早や物干に登つた而も腰卷一つのまゝ、されど相手の男は居ない「押し入れに隱れたナ……」巡査は執着い、ガラリ「ソラ居た出ろ態は何うか名は何どいふ……イヤ君か……

●●●

●友の免職●　清眠

松野幸雄は嚇として怒つた、同僚は驚いた「那の口も利かない温順しい人物が」併し松野は憤の人熱の人である、ダカラ怒る時も人並よりは激しい、僕は寧ろ彼の怒りを鎭めずに終極迄怒らせ相手の菊池をして叩頭謝罪せしむるが宜からうと別に仲裁もせず知らぬ顔をして事務を執つて居つたとかうする内議論はます／＼烈しくなり、終には醜行をも演じ兼ねまじき權幕となつた、默つて見て居る譯には行かぬ「止し給へ」と聲を掛くると同時に松野は椅子を探つて相手を撲つた、サア事が面倒になつた、相手は承知しない、重役に訴へた、案の條松野は免職となつた。



佐倉宗吾（八十四）

眞龍齋貞水講演

甚「サア、外が少し晴れましたから、今粗朶を取つて、もちつと焚べます、寒い時の御馳走は、焚火の外はございませぬ」と甚兵衛、山刀を提げて表へ出る、宗吾は粗朶取りに往く事と思つてゐると、暫時經つてバラツツ、バチーンて音がする、頓て甚兵衛小屋へ歸り 甚「サア旦那殿、鎖と封印の附いてゐる丸太を打た切りましてございます、斯う致りや直ぐに貴下、船へ御乘りなすつて、折角これまで御出なすつたもんだから、御宅へ入らつしつて、御新造様や坊ちやまに、此世の別れを告げて仕らつしやい」宗「エーコレ甚兵衛、其方は其封印の附いた丸太を切つちや、後日にての迷惑……」甚「そりやア覺悟でございます、旦那殿、に三年前、死する生命を助けられ、斯うやつて三年生延びたのでございますから、私は既う此世で死んでも、ございません旦那殿が折角、是迄御出來なすつたのを、安治甚兵衛が何で、ものもの喜へ御返し申すものですか、御道遠にや及びませぬ、御乘りなすつて下さい」宗「其辱けない甚兵衛、其親切は忘れはせぬぞ」甚「エー緩覽緩で御話し致します、サア旦那様、御危のうございます、辷りますから、能く氣を御注けなさいね」宗吾を船へ乗せると、四邊へ眼を配つて、棹を差し、ズウーッと向ふの岸へ渡し込んだ 甚「旦那殿、向うの方が水神の森、其森は彼處で渡したのでございますが、段々變つて、此間野の渡に成りました、彼處の乘り好い處へ船を着けて、水神の森で火を焚いて居りますから、それを、目標に御出なせね、其處に役人が來ても、貴下さ船へ漕けて仕舞へや、役人が愚頭々々して船を探してゐる内に、向うの岸へ渡して仕舞へますから、大丈夫でございます」宗「何から何まで辱けない」と、宗五郎は涙を流して雪を踏分け我家を指して行つて參ります、此處は向うに聳門山を觀、前に印旛沼を控へて、風景の好い處でございます、久々に故郷の土を踏みます宗五郎は、妻のお美禰や子供等は、如何した事かと、我家の簷口の處まで、密と忍んで來て、若しや宅番でも附いて居つて、折角此處まで來て、御縄でも頂戴するやうな事ではならないと耳を澄して家内の容子を聽てゐる雪は次第に積る、積るほど物靜かなり暮の雪、四邊はシーンとして段々夜は更ける、宗五郎の子供は總領が宗平、次男が喜六、三男が三之助と申しました、一説には女の子が一人あつて、人の妻となつて居りましたが、後に宗吾の一念が餘り甚く堀田家へ祟るに依つて其女の子を探して、之に繼を取つて岩橋村の名主にして、之が弥右衛門と謂ふので、連綿と相續して居るとございます、此時は三八の子供が家に居りました、すると其二番目の喜六が 弟「兄いさん／＼」兄「喜六や何事だ、眼が覺めたのか」弟「兄いさん今ね御父さんが江戸から歸つて入らつしたと思つた」兄「ナニ、御父さんが歸つて入らつしたア」弟「ア、兄いさんにはね、温順しくてゐたからさ仰つしやつて、筆と墨を御土産に持つて入らつして、此喜六には能ら柔順してゐたと云つて、瓢男の面を買つて來て下すつて三之助には、太鼓を買つて來て下すつたから、俺が其太鼓を叩いて、瓢男の面を冠つて踊つたと思ふと眼が覺めた、兄いさん夢だから詰らない、よ御父さんは何日御歸りになるだらうね」兄「然うか、喜六やれ前は其様な夢を見たのかへ、御父さんは來年にでもなつたら、御歸りになるか知れない、早う眼を眠らないか」



統監と兵馬の權
保護政治の權威

京城新報

回顧すれば伊藤公が統監の印綬を帯びて保護統治の任に當らんとするや、統監たるべき資格に就て褒詞して曰く「統監の職責は重し陸海軍に對して威望あると共に世界列國の大勢に通ぜざる可らず」と、暗に乃公の外此大任に當るものなきを仄めかせりき果して公は先づ統監に兵馬の權を委ねんことを主張したり、然るに軍人側に於ては文官たる統監に兵馬の權を托するに反對せり温厚寛大なる大山元帥すらも快諾するに躊躇せり、然れども當時の事情は韓國に軍人の統監を置くことは列國に對して聊か懸念する所あり、終に畏くも聖上陛下の聖慮を煩はして兎に角文官たる伊藤統監に兵馬の權を與ふるに至りたる也。而して就任三年有半に亘り其間に於て統監として有したる兵馬の權を如何に運用したるか、所謂觀兵式の大將軍に過ぎざりき、素より其運用は統監として其有する智識と良心の許す範圍に於て爲し來れるも、其成蹟に至りては眞に愍むに價ひするのみ、畢竟之れ伊藤公が統治上の方針を誤れるが爲ならずんばあらず。

余輩が常に主張する如く韓人統御に對して最も必要なるものは權威也。此權威が韓人に認識せられて始て諸般の事は凝滯なく行はるゝ也。徳を以て渠等に望むことは宗教家の事にして政治上よりは到底望むべき事に非ず。然るに伊藤公は權威の根源たる駐劄軍をして啻に權威を發揮せしめざるのみならず、或る場合に於ては余儀なき事情ありしと云へ、彼の侍天教徒誤殺事件の如きは我軍をして韓人に對し殆ど謝罪の如き事をなさしめたるに非ずや。既に駐劄軍を以て權威の本體として保護政治を遂行せんとするに統監自身が權威の本体たる軍隊の威力を輕からしむるが如き事を爲せるは、畢竟自ら先づ侮るものと言はざる可らず。見よ統監の口に依りて既に鎮定せられたりとする暴徒は今尚各道に於て猖獗を極めつゝあり、此等の暴徒は韓人の爲には對日本と云ふよりも寧ろ對統監の外交武器に使用されつゝあり、彼の一進會の如きすら統監に見捨てゝ顧ざれば暴徒たらんと暗に統監を脅迫せんとしたる事すらあり、由來暴徒なるものゝ事情斯の如くなれば、保護政治の遂行を期せんには如何にもして暴徒を全滅せざる可らず。暴にも論じたる如く暴徒跋扈の爲に税金の徴收をも爲す能はざる今日の現状にては保護政治の完成は到底望み得べからず。果して然らば何事を措きても第一に暴徒の掃討を爲さゞる可らず、暴徒の掃討によりて保護政治の權威を示すは最も必要なる事なりとす。

惟ふに從來伊藤公の採りたる兵馬の權の運用にては到底効力なく、然らば伊藤公に換ふるに之を能く運用すべき軍人を統監となすべきか、軍人統監を置くに就ては列國の思惑如何を配慮するものもあらんが、既に東洋拓殖會社にすら軍人總裁を置く程に無遠慮なる政府は軍人統監を置くに何の顧慮する所あらんや。要するに今回起れる伊藤公の辭任は實際に於ては統監の手より兵馬の權を削くべしとの議論が動機となりたるが如し。公が辭意を固ふしたるは全く之が爲ならずんばあらず。果して然らば後任者を以て目さるゝ曾禰副統監にして昇任するとせば兵馬の權を如何にすべきか、是れ現今に於ける最も重要なる問題たらむ。

東京電報

▲**韓皇の傳言** 韓皇には曾禰副統監の歸朝に際し韓太子に左の傳言ありたり

本國の事は心配なく伊藤太師の指道に從ひ充分勉强せよ

▲**海軍大學臨幸** 天皇陛下には本日海軍大學校卒業式に臨幸あらせられたり

▲**高商父兄大會** 高等商業學校の父兄大會を開き參集するもの一千余名其中より九名の交渉委員を擧げたり

（以上午後十九日發）

外報一束

●**英國議員の歳費** 英國下院は九十二票に對する二百四十二票を以て下院議員に對し歳費三百磅給與賛成決議を可決せり政府は直ちに此の決議を容れたりと

●**財政計畫と反對** 倫敦シチーの最も有力なる銀行家、實業家等は豫算案に現はれたる政府の財政計畫に反對し出納局等ロイド、ジョージ氏に向ひ强硬なる抗議を表白せりと

●**大學總長の叙勲** 高平駐米大使はハーヴアード大學に於て今度退隱する同大學總長エリオット博士に旭日章を授け博士が教育殊に多數のハーヴアード留學日本學生に對して盡せる功勞をば日本皇帝陛下が嘉賞せらるゝの意を傳へたり

●**久邇宮と古戰塲** 久邇宮殿下は巴里に向ふ途次メッツの古戰塲を訪はせられり

●**飛行器製造會社** 伯林に於てライト式空中飛行器會社設立せられたり同會社はライト氏の專賣權を取りたるなりと

●**伊國軍艦建造案** 伊太利政府はドレッドノウト型戰鬪艦二隻の代りに四隻を建造する海軍計畫擴張を決定し又其豫算は一箇年一百萬磅總計六百萬磅を增加したりと信ぜらると

雜報

●**國有地の調査** 度支部にては驛屯土及其他の國有地を調査すべく近々四十二名の主事を採用する由なるが右に要する測量器及木積器等は日本に注文したる料材も不日到着するに付き來月一日頃より着手の筈にて其の方法は全國に六十組の吏員を派遣し一組は調査員一名、測量員一名、通譯一名都合三名を以て組織し之れを各監督局に配置し測量を爲し地圖を作りて面積を知り國有地の所在を明らかにし以て管理を確實にする由なるが其調査を要する時日は一年四ヶ月の豫定なりと尚全韓國の國有地は未墾地を除き約十萬町歩位也と

●**伊藤公の地位** 曾禰副統監が統監に昇任し伊藤公樞相となりたる後伊藤公は韓國の統監政治を全然離るべきやといふに洩れ聞くところによれば伊藤公は或る至高至大の形式により日韓協約以來の公が功績を認められ今後も韓國の統治につきて間接盡力するの位置に立つべしと又公は韓國皇室より受け居る太師の資格を以て韓國東宮殿下の指導をなすべしと

京城漫話（其四）

龍山臥龍生



日人與みし易しハアッハアッ……

●**牛疫檢疫所開廳期** 輸出生牛の檢疫所は三万余圓の豫備金を支出し釜山に設置せらるべきことは豫て報導せしが在釜山の居留民は敷地及牛舍の爲めに五萬圓の寄附金を申請し來りし由にて勅令案も既に内閣へ提出したるを以て來る七月一日より開廳の運びに至るべしと

●**愛國婦人救護部會** 明二十一日午後一時三十分より倭城倶樂部に於て愛國婦人會救護部會開催せらるゝ由藤田軍醫部長及目下來京中の和田海軍軍醫少監等の講話あり部員の紹介ある會員有志は聽講差支なしと

●**不作地と社還米** 京畿道陽川市外八郡の不作地に對し内部は度支部と協議の上社還米を社倉に貸與すべき由は屢々報導したる處なるが愈々兩部に於ける協議纒り社還米六百四石を支出することに決定したる由なるが同貸與米は種子其他に融通せしむべきものなりと

●**東拓の流域利用** 東拓會社が引受くべき驛屯土の場所は成るべく灌漑と水利の便なる地方を選定する方針にて別項記載の如く同會社員の出張せる方面に見るに漢江上流にては利川、驪州等洛東江方面にては慶州、開州等大同江方面にては載寧等にて重もに流域を利用する筈なりと

●**饑饉救恤金傳送濟** 咸南文川饑饉救恤の各地愛國婦人會員其他日韓篤志者の義捐金は愛國婦人會韓國本部及京城日報社取扱を合せ千五百四十七圓八錢に達したるが右は先頃元山理事官宛傳送を了し尚其後本派本願寺大聖教會有志者より十六圓明新女學校内日韓婦人會員有志より十七圓を本部に傳達方依頼し來りしに依り此程傳送を了したりと

●**東拓の株券交付** 東洋拓殖會社は客月廿七日より本月廿五日迄東京に於て株券の交付を爲し廿五日を以て同社東京出張所を引揚げ六月一日より韓國に於て株券の交付を爲す事に決定せり

●**地方費と道書記官** 地方費法の實施に關し内部にては之れが準備として來月一日を期し各道書記官を召集し打合會を開くべしと因みに同會議は例年開會さるべき地方官會議と性質を異にし全く地方費法實施に關する打合せなりと

●**赤十字總會出席者** 赤十字第十七回總會は愈來六月四日東京日比谷公園に於て擧行せらるゝ筈なるが今日迄の參列者は京城よりは佩有功章者松井警務局長中村再造鎌勝次の兩氏特別社員古城管堂其他正社員諸氏釜山よりは佩有功章者大池忠助迫間房太郎福田增兵衛特別社員豐田福太郎今西峯三郎入佐清靜小方駒藏石原民長荻野彌左衛門の九氏其他正社員諸氏及仁川永登浦より社員有志參列すべしといふ

●**東拓の農場と載寧** 東拓會社が引受けたる驛屯土の内黄海道の載寧には約一千町歩の纒りたる處ある故同所は之れを農場と爲すの計畫にて尚大同江より載寧川を遡航するには約四百石の船舶を通じ得る由なるが該方面の鳳山附近に於ても亦引受たる土地あるにつき將來は鎮南浦の築港竣成と相俟ちて此の方面の富源を開發する筈なりと云ふ

●**全國社還米石數** 從來社還米なるものは軍用米として社倉に蓄積せられたるものなるが現今は軍用として米穀を貯蓄するの必要なきを以て貧民救助の爲め使用さるゝに至りたるが同米は財務監督局監督の下に社首之れを保管し居る由にて現在の在倉米は全道を通し約五六萬石にして春季に於て之れを窮民に貸與し收穫季に於て返納せしむるものなりと

●**官立學校の卒業生** 隆熙二年度に於ける各官立學校の卒業生徒數は師範學校速成科二十九名同校講習科三十一名（以上兩科共普通學校本科訓導免許狀授與）高等學校二十三名外國語學校日語部三十五名英語部十九名漢語部九名法語部四名德語部二名日語部速成科三十七名仁川日語學校十名平壤同十三名ありと云ふ

●**貨幣發行高週報** 五月九日より十五日迄に至る一週銀貨幣發行高左の如し

第一銀行券總發行平均高	九、二二二、七〇〇
内正貨準備發行額	三、一一七、一〇〇
保證準備發行額	六、一〇五、六〇〇
銀行券平均手許有高	六八一、七一六
銀行券市場平均流通高	八、五四〇、三八四
硬貨發行額（五月十五日現在）	四、二三二、九二〇
内金貨　二十圓	一、三五〇、〇〇〇
同　十圓	五〇、〇〇〇
銀貨　五十錢	六六八、五〇〇
同　廿錢	七二三、五〇〇
同　十錢	三九六、五〇〇
白銅貨　五錢	七九六、九〇〇
青銅貨　一錢	一三五、五八〇
同　五厘	六一、九四〇
金貨　五圓	五〇、〇〇〇

●**道書記官々舍建築** 本年度に於て各道を通し四ヶ所の道書記官々舍を建築すべき筈にて過般來内部に於ては之れが選定中なりし由は既報せしが愈今明中決定の運びに至るべしと

●**白耳義總領事轉任** 京城駐在白耳義總領事レオンヴアンカールは四月一日付を以てアンカス駐在ウエヂヱラ及コロムビア代理公使に任命されたるが同氏は後任者着任迄は依然京城に駐在して總領事の職務を執行すべしと

●**清國密獵船取締** 韓國沿岸に清國密漁船の年々出沒せるもの數百千艘に上れるが其漁獲せる高は實に數十萬圓の多きに達せるにも拘はらず從來清韓兩國の間に於ては何等通漁上の條約なきを以て纔きに日本政府は之れを清國政府に諮議するところありしも何等要領を得ずして今日迄經過せしことなるが今般韓國政府と統監府との間に漁業法實施後は何等の權利を有せざるものに漁利を得せしむることの不法にして尚追々漁業の好時機ともなるべきこと故之れが取締の方法を講ずる筈にて目下協議中の由なれば近々確定の上嚴重の取締を爲すに至るべしといふ

●**驛屯土の調査** 東洋拓殖會社に於ては引受たる驛屯土四分一の整理と引受くべき四分二を調査するため社員をして明日頃より左の通り夫々部署を分ちて出張せしむる筈なるが何れも二三週間の豫定なりと

▲載寧方面（大同江上流）安東調査役外三名▲馬山方面笠井囑托外二名▲慶州洛東江及開寧方面足立參事外三名▲漢口上流の利川、驪州、振威、安城方面大橋參事外三名

●**龍山の撰擧状況** 龍山民團議員補欠撰擧はいよいよ本日を以て決定の筈なるが先づ昨日迄の形勢は混沌として更に分明せず何れも必死の勢もて有權者を勸告しつゝあるが想察する所市民派の大村、藤野兩氏の勢力却々盛んなるを以て他は大に之が勢力粉碎策に努め居るものゝ如し次で松本、川本兩氏の出馬は見るからに眼覺ましく民團役所前に事務所を構へて運動オサオサ怠りなし又た官憲側の候補者海津、竹田の兩氏は太陽館支店に根城を構へ田淵、村井、杉本、大森の四氏互に轡を揃へて極力奔走に余念なし大森、牛丸の兩氏は斷然野心を抛ち大森、川田、服部の三氏も補候を斷念せしものゝ如し而して大野松吉氏は最初候補に立つを好まざりしも一昨日俄かに打つて出で大に敵の根底を崩さんと敎圍き居る由要するに中原の鹿は果して誰の手に落つるや本日の撰擧締切迄の光景ぞ頗に見ものといふべし

●**大野吉松氏斷念** 龍山逐鹿界の状況は別項記載の如くなるが更に本稿締切間際に聞く所によれば大野吉松氏は候補を斷然し海津鐵道管理局囑托非常に優勢なりと

●**課金徵收の請負** 從來釜山會議所の難問題として常に當事者の手を焼きつゝありたる賦課金徵收は試みに之れを請負に附して其の成績を見ることゝなりたるが右は同地田邊正吉氏を以て之れを請負はしむる事に契約纒まりたりと

●**新義州の民團財政** 新義州民團にては目下頻りに滯納税金の徵收整理に着手しつゝあるが約壹萬四千圓の滯納額も半以上徵收を了し興業及五八兩銀行の負債利子は毎月支出し行く外に兩三日前五十八銀行より借款したる八千七百八十圓の内第一回として元金五百圓を償却したる由

●**米總領事開城行** 米國總領事サモンス氏及ハリス博士ジョーンス、ゲール兩教師等は十八日開城教會女學校棟上式に參列の爲め同地へ赴き同日歸京したり

●**出入船舶と乘降者** 仁川港一昨日の入港船は穩城丸一隻にして出港船は安平丸、弓張丸の二隻なり其の上陸者は男十[illegible]名女六名乘船者は男五名女二名なり當日の在港船は揚武、マクアリクマース號（獨船）顯朝丸、東照丸、櫻井丸、錦江丸、住の江丸、天草丸等なり

公人私人

▲高瀬經雄（釜山副理事官）十八日入京不知火
▲金谷三男（天安憲兵分隊付）[illegible]
▲加藤恭平（三菱合資員）同巴城館
▲川上繁治（[illegible]理事）十八日歸壤
▲若松兎一郎（木浦理事官）巴城館に投宿中の處十八日赴任
▲白石直治（工學博士）巴城館に滯在中の處十八日釜山
▲廣瀬綜徹（神戸建築所技師）同上
▲濱田彪（長崎造船所技師）同上

近事片々

▲對禍● 外交益々面倒伊藤老公の手を煩す必要ある爲に統監辭任との風說は些と怪し
▲小村● 外相も未だ夫れ迄耄碌せざる可し斯る說は外交の鬼角振はざるより起り來る
▲乃公● も宜しいと詫びて北京下んだり迄出掛ける程のれ人管しならず先づ樞相が穩
▲大朝● 天聲子曰く伊藤統監に取る所は清廉潔白にあり曾禰子は此點に於ては如何と
▲然● り曾禰子に疑遺ふ所は實際此點にありとは全く世人の思ふ所是十目の見る所か
▲黄金● の爲に動かざるは最も伊藤公の美德也公が世に信望あるは全く是が爲たる也
▲韓人● に對するには權威は無論必要なれども清廉潔白も亦必要所を兼ぬるを要す
▲請托● 賄賂の横行は五百年の因襲之を革むるには最も清廉なる人の指導を要する也
▲少し● く手を緩めれば請托賄賂の風は滔々として强り來らむ統監は極て嚴肅を要す
▲米國● にて最早ル氏とタ氏との比較論盛に說れ多くはル氏を以てタ氏に優るとなす
▲ル氏● の精力過絶奮闘果斷は何人も見て潔しとする所此點に於てはタ氏或は劣らむ
▲然れ● ども悠揚迫らず徐ろに事を處斷する寛宏なる態度に至りてはタ氏或は優らむ
▲大博● 總長和田彦氏倫敦より歸來して我外交官の評をなす其評言一寸面黑き所あり
▲加藤● 高明の人物技倆は吾輩今迄知らなかつたが實に見上げた豪い外交家であると
▲山座● は世間既に定評ある豪傑陸奥は外國語に老熟せる耳ならず備に乃父の子也と
▲和田● 彦先生聯雲加藤高明に感服せるものゝ如し併し餅は餅屋和田君は外交はダメ
▲駐米● 清公使伍廷芳君召還され後任には張蔭棠派遣せらるべしと果して事實なりや
▲伍廷● 芳召還さるれば華盛頓に名物男一人減る渠は兎に角豪ひ外交家の一人である
▲高商● 事件の張本人と目せらるゝ岡田次官は攻擊火の手の猛なるより辭職すべしと
▲岡田● は吏才に長けたる小刎口もの故に時々小刀細工を弄しては失策する愼むべし
▲此頃● 柔術と拳鬪との試合あり今度の相手は中々鋭く昆野氏勝を制せず五分々々也

●**龍山印刷局の擴張** 龍山に於ける度支部の印刷局にては經常費十九萬九千圓を以て韓國各官衙の印刷物を印刷しつゝありしが本年度よりは臨時費四十三萬圓と[illegible]從來蒸氣を用ゐたる動力を電氣に變更する等一切の準備今月中に完成するを以て來月よりは此新準備の下に木版、石版、凸版等[illegible]印刷をも請合ふ筈なりと同局現在の職工は日韓人三百五十八にして局員四百二十八人也

●[illegible] [illegible]の初日なるを以て長谷川町の西本願寺

(日刊)（月曜及祭日翌日休刊） 明治四十二年五月二十日 京城新報 （木曜日） 第百十三號 （三）

る度支部の印刷局にては經常費十九萬九千圓を以て韓國各官衙の印刷物を印刷しつゝありしが本年度よりは擴張費四十三萬圓を投じ工場を新設し機械活字を購入し着々等一切の準備今月中に完成するを以て來月よりは此新準備の下に本版、石版、寫眞版等の印刷を爲し官廳の印刷物を主とし個人の依賴に依り小切手、債券等有價證券の日韓人三百五十人にして局員四百二十人也

●西本願寺說教 卅二十一日は眞宗大師の誕辰日なるを以て長谷川町の西本願寺にては同日午後二時同八時の二回說敎あり



●天ぷらの材料

溫かい飯の菜には天ぷらの揚げ立ての汁の中へ入れるとジューと音のする樣なのが一番だらう、鯛のあら煮、鰹の銀腹、鮪のブツ切りの刺肉に山葵と大根卸しを澤山入れて鰹節の煮汁を取つた醬油で食らかすのも徒事ではない、否、確かに美味いが、到底揚げ立て天ぷらの上に位することは出來ぬ併し樂め斷つて置くが、其の天ぷらも鯛の切り身や、鰤の夫れは御免である、夫れならば鯛のあら煮が善い、鰹の刺身が善いイヤ鯛や鰤のそれでもよい、拙者萬一何うかして諸君の御宅へ紛れ込んで御馳走になる樣なことが無いとも云へぬ、其節は此れを御含み置き下すつて其のたに心算で御接待を願ひたい、

閑話休題、天ぷらの種としてはヤア海老、貝柱、ギンポウ、烏賊、シャコ、アナゴ等を推稱する、下つては鯒も一寸宜い、能く絆がつて白魚の（漢江で獲れる鯒のれ化の樣なのでない、水晶を削つた樣な白魚）天ぷらを賞玩する人がある、三つ葉か何にかを過らつて……一寸見は美しいが決して美味ではない、其處へ行くと下卑るけれども鯒は一寸食れるテ、此れは丸揚げに限る脊骨を取つて開いた奴は駄目である。

海老は車海老の六七寸もある奴なれば文句はない、勿論上等であるが、芝鰕の搔き揚げも又一種の特色がある、貝柱はバカ貝のが上等だと思ふが、京城では此れは到底望む方が無理だ、キンポウも見當らぬ。

烏賊は墨烏賊に限る、忘れても其脚を食ふべからずだ、シャコに至つては人に依つては海老よりも好む、味に一種言ふべからざる野趣がある、アナゴは取り立てゝ云ふべき程のものでない、況んや當地のは骨澤山にして殆んどハモの子の如くなるに於てをやである。

此の頃朝市場をウロ付いて見るのに、海老や、烏賊やが澤山ある然るに當業者は好んでアナゴや鯛や鰆を材料に使ふ、…くねね料見だ。

十四五年も以前のことだが下野の宇都の宮で田螺の天ぷらを食はせられた事がある、知らずに食つた爲か一寸食へたが夫れと聞いて吃驚した、と云つたからとて、宜い言を聞いたと眞似をしては困るぜ。

精進揚げ（野菜の揚物）には葱も美味いもので、御存じの方もあらうが、筆の序で書いて置く。

揚げものゝ話しだけに筆が辷り過ぎたのだ無理はなからふ。（むら）

●料理屋連の恐慌

▲藝妓檢梅より起る騷閙 理事廳令第三號を以て花柳病豫防規則を發布したる結果第一種料理屋中花月、掬翠、井門、淸華亭の如き一等料理店とも云ふべき各樓主等は頗る恐慌を來たし中券番に屬する各料理店主は昨十九日壽町一丁目中券番に會合して種々凝議する處ありたる由なるが今彼等樓主の恐慌を來す理由は同則第一條に依り抱へ女の健康診斷を勵行さるゝ場合には抱藝妓及酌婦等に於て自然鞍替を要求するもの少なからざるに至るべきを以て斯くては一等料理店の如き多額の前借金を與へ居れる樓主は爲めに鮮少ならざる損害を蒙るに依り該令の發布に就きては無論異議なきも損益問題より打算して斯くの如く善後策を講ずるに至れるものなりと云ふ

●れ客は詐欺漢

仁川宮町三丁目居住の馬場郁二郎と云ふは元谷井石炭商の店員なりしが當時は何んの職業もなきに毎夜公園下二見樓と云ふ飲食店に登樓し何とか云へる淫賣と巫山戲居るにぞ仁川署刑事は不審と見て取り種々取り調べたる所郁次郎は懇意にせる日本地通りの釘本仕立屋が某石炭商より金の抵當に石炭二十一噸許りを貯藏せるを聞き込みたれば直ぐ出掛けて行き其の販賣方を托せられたしと賴み込みたるが釘本も目下の不景氣に如何にても儲ければ好いと二つ返事に決諾したるより郁次郎は最初より詐僞せんものと目論見るものから其の翌日永登浦の山崎から三噸の注文ありたれど此の石炭にては駄目なれば八田より取寄せんとて釘本より二十六圓四十錢を詐取し又英國領事より注文ありたりとて又二十四圓二十錢を詐取したり外石炭を詐取したること發覺し一昨日逮捕せられ昨日檢事局に送らる

●大泥棒の撿擧

西大門外京口居住高順同と云へるヨボは昨年竊盜罪を犯して入獄せし奴なるが出獄後は益々斯道に巧者となり大鋏を以て門戶の鑰を開き手當り次第に盜み出し其被害數は京城より龍山に亘りて數十ヶ所の多きに及び居れるが其中重なるは本町一丁目稲地時計商にて金側時計及銀側時計價格百余圓のものを竊取したるなりと尙彼同人は此程本町筋を通行中憲兵の爲め捕はれ目下取調中なるが他に數名の連累者もあり其等は何れも洋裝を爲し多少日本語をも解せりと云ふ

●消防演習模樣

京城居留地消防組演習は昨日擧行されしが當日午前七時市內各所の警鐘を合圖に消防組一同は新町派出所に集まりたるが其間僅か二十分にして全部集合したり一同集合するや桐原南部署長以て一場の訓示を爲し其れより喞筒、水管、手押しポンプ等の使用演習をなし終て總監、永谷、濱島、呼子各警視桐原署長、小熊、田部井口の各警部及び熊谷民長等は之れが檢閲を爲せしに結果頗る良好なりしと尙ほ一同は演習後寶六庵にて酒肴の饗應を受けたり

●襟の中から金

去月仁川海中に於て仁川署刑事と格鬪の末終に捕縛せられたる稀有の大賊岸本松藏は釜山にて三年の處刑を受け更に仁川にて七年の懲役に處せられたる所松藏は不服を唱ゐ訴訟したるが一昨日却下せられたりと尙聞く所に由れば松藏は襟に地金四匁を匿し居たりと云へば尤も得意とせる破獄を企て何れにか逃走せん意にて右地金を旅費に充つる筈なりしと手の着けられぬ賊と云ふべし

●拐帶者の自首

本町四丁目廣池久太郎店員大分縣平民尾島常藏（廿七）は去る四月三十日主家の金百八十八圓を拐帶逃走せし爲め廣池より其筋へ告訴し爲したるが常藏は爾來各地を放浪して拐帶金の全部を費消したるも犯せる罪のそら恐ろしく良心の苛責に堪へずして一昨十八日午後八時三十分遂に會洞派出所へ自首したりと

●猛虎を射止む

鎭南浦居留民某が過日一匹の猛虎を打ち止めたる事は此程の紙上に記載したるが又々去る十六日午前八時南浦を巨る事僅かに三里三和の山頭に於て鎭南浦理事廳通譯尹晟撲の悴吳鳳益及同地龍井洞居住の邦人山根源治の兩名は散彈一發にて美事に五歲の牝虎を擊ち止めたり

●石黒辯護士の移轉

多年仁川を本據として民刑の訴訟事務に從事し老練と親切とを以て世人の信賴を博せる辯護士石黒行平氏は今回本據を京城に移し南山町二丁目五十五番地石倉我勉氏邸を事務所に宛て汎く內外人訴訟の依賴に應ずべく仁川には山手通病院下に出張所を置き石塚嘉市氏を其主任として石黒辯護士は臨時京城より出張執務すべしと云ふ

●科料頂戴者二人

仁川新町一丁目奈良縣生れ森本寅吉（十九）は僞稱して寄留届を出したる廉にて一昨日仁川警察より科料一圓五十錢に處せられ又宮町三丁目人力車夫塚口巧（三十）は無燈火にて車を挽きたる廉にて科料三十錢に處せらる

●九錢から頭割り

仁川龍岡洞申水根方同居船夫朴基順（三十）と云ふは飲食代九錢を支拂ふ支拂はぬ迚より爭論を初め遂に朴は申の頭部を毆打し長さ一寸深さ二分の傷を負はせたるより朴は拘引取調べを受く

●不良のラムネ

仁川港町二丁目露店ラムネ製造商製ラムネ販賣せる數島仁川ラムネ製造所のラムネ沈澱物を生じ居るを以て一昨日其の販賣を禁止せらる

●矢野桶店の大勉强

明治町一丁目橫通り桶商矢野商店にては今回業務を擴張する

演藝界

▲永樂亭 先日來同亭に於て興行中なる吉川圓朝一座は每夜の大入に一同大車輪に聽客の御機嫌を伺ひ奉り居れるが今晩より更に去月當地同亭に於て興行大喝采を博したる源氏節岡本美根松一座を加へて各々得意の讀み物を演ずる由本夜の番組左の如し

八百屋お七寺の段（岡本美根鶴）お半長右衛門道行（岡本美根鈴）生首お仙吉田探偵二度目の手柄（浪花万遊）いかるが平治出羽山形象五郎建引（浪花小三花）白井權八長兵衛內（岡本美根由）佐倉義民傳甚兵衛渡し場（岡本美根松）內匠頭切腹の段、前原伊助傳（吉川圓朝）

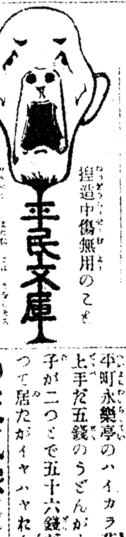
▲歌舞伎座 今晚より改良浪花節長谷川豐廣一座を以て蓋を明けたり重なる語り物は誠忠江戶の花お玉庄吉の傳（吉川駒吉）小佛重三（吉川小菊）大閤眞顯記（熊山元丸）忠孝美談山田三代記（吉川圓長）義士銘々傳、永樂德太郎（長谷川豐廣）

▲壽座 本日の替り狂言藝題は『兄殺し』にして其割役は左の如し

淸水長左衛門若林公證八（松村）遊人銀次署長佐藤房則（吉井）淸水三郎（大山）淸水二郎（篠田）淸水太郎（阿部）妻お里伯父金左衛門（高山）村長堤佐源太（中村）藝者小藤後に太郎の妻（堀江）鬻染金次（田宮）

●韓語獨習

日語	韓語
毎日、稽古計りします	ナルマタンク、コグプマン、ハオ
幾日許り降りましようか	メッチルイナオグスミニカ
七、八日間降ります	チルパルイルカンオジヨ
明日午後、來る	子イル、オフー、オン
と云ひます	ターハーオ
此れは何んですか	イコーヌン、ムーオースミニカ
人蔘です	インサムイヨ
非は、ありませんか	マースルン、オプスミニカ



▲八重臉（太平町）の二階建て増しの建築法の如き奇妙なのは少ない先づ或る古道具屋から硝子障子を買つて來て其れに當て篏めて窓を作つて居たのを調子で段階子なぞも古物かなければ掛けぬかも知れんです（失笑子）▲夜間勞働者の募集を當紙の無料紹介欄へ願ひましたら只の一回にて十四五人の應募者押掛けて參りまして直く適當の者を得ました本欄を藉りて感謝の意を表

します（大成社主）▲京城香寶韓國に於て本年の如く雨の多い時も少ない樣だが又本年の如く雷の多く鳴り霹靂く年も少ない樣である（豫測者）▲秋月生君、君は誤解して居られる樣だ君の欄に熱して居る人に斯う云つたら怒るだらうが今の君位の時代に哲學思想は危險だ君は『自然は人を造り人を殺す程なら何故造るか矛盾の甚だしいものだ』と云ふが更に一歩を進めて考へんからだよ若し君の口調を藉りて云へば『彼れは金を儲けて居ながら傍から支出つて居る費う程なら儲けなければ宜い』と又『彼れは飯を食つては野隱に通く糞にする程なら初めから手數を掛けて飯を食はなきや宜いのに』とも云へるが此樣理窟は通用しない君、矛盾は宇宙の大眞理だよ（小僧）▲韓國宮內府の馭者大川さんは勳章を四つも胸に下げて二三日前の夜長谷川町の一富士の鱗りの小料理屋の前で其所の酌婦と話して居た曰く『俺も漸くのことで勳章を貰つた』と意氣昂然スルト其の酌婦はサモ嬉しさうに『マア善かつたわネ夫れで妾しも安心したワ』とは振つたね（素見客）▲不景氣と云ふものは恐ろしい近來外へ出て見ても金口を啣へて居る人が少ない贅澤が出來る樣でなければ駄目だ（花子）▲電話帳に番號順がないので甚だ困る二錢や三錢印刷費が餘計入費つても宜いから添付して貰いたいものだ（一商人）▲幾ら朝鮮が寒いとは云へ此の頃手袋をはめて步く人があるが手が不具かしら（見受生）▲人の前で此んなことを言ふと笑はれますよ手袋は寒いから計りで箝めるものではありませんから（係）▲太平町永樂亭のハイカラ菊どんは却々算術が上手だ五錢のうどんが十杯と二錢五厘の玉子が二つとで五十六錢だと云つて大層威張つて居たがイヤハヤお上手／＼（長崎八）

●天氣豫報（自十九日午後六時至二十日午後六時）

南西の風曇

十八日 最高溫度（華氏）七三、六 最低溫度 五二、二

各種 **洗濯石鹼** 專門製造販賣

用途 陸軍、鐵道、船舶、鐵工、鑛山、水道、諸工業用

京城旭町二丁目 (電話九七三番)

朝日石鹼製造所

▲無料紹介欄▼

人事部

●外交員入用 多勞多酬市內保險人を要す年齡問はず南山町三の七農商工月報支社

●給仕に雇はれたし 年齡十七歲身体壯健 氏名在社(二五八)

●被雇度 年二十五歲身体强健多年農業に經驗あり農場經營者へ雇はれたし市內に確實保證人あり 姓名在社(二五九)

●被雇度 年二十六歲身体壯健にして勞役は米又は雜貨屋に雇はれたし市內に確實保證人あり 姓名在社(二六一)

●被雇度 多年寫眞術に從事尤も技術を善くす給料多きを不望至急被雇たし 氏名在社(二六二)

物件部

●求貸二階 南大門より本町三丁目迄の所にて親切のよき二階二間(床、押入付)格安にて借受たし 姓名在社(二五一)

●賣却 古寫眞器附屬品共安價にて賣渡したし 氏名在社(二五三)

ヴァイオリン講習樂器を備へ懇切に教授す毎週月水金午前十時より 永樂町三番 樂講習會(二五六)

中古英國製コースター付自轉車至急讓受けたし 姓名在社(二五七)

廣告

神經腦病頭痛 全治最良藥

醫學博士 ○○明證 有効

健腦丸

恐るべき腦充血を根治す

本舖 大阪 丹平商會

醫學博士島村先生 有効證明

命の泉? / **ミシン?**

●いかなるはいたでも いまなをるはぐすり

全國各藥店 取次販賣す

本舖 大阪 丹平商會本店 / 東京 丹平商會支店

藥價 小瓶七錢 中瓶十五錢 大瓶三十錢

事務員傭聘廣告

左の條件を具備せる事務員一名を傭聘す

一年齡二十歲以上三十歲以下にして健筆なる者

一法律の素養ある者

一京龍に於て相當なる身元保證人ある者

一三ケ月以上勤續を誓約する者

志望者は至急自筆の履歷書携帶來所せられたし

京城本町一丁目(民團役所前)

增本事務所 電話千五十番

名譽褒賞受領 **キリンビール**

明治廿年七月創立

東京火災運送保險株式會社

資本金一千萬圓 事務所 京城本町二の三 電話一〇六〇番

京城代辨店 本町四 山口吳服店 電話九

株式會社 **第一銀行韓國總支店**

電話番號 長第一二一番 國庫部、發行部、營業課、當直用 / 第三二一番 國庫部、發行部、營業課用 / 第六二一番 支配人、調査部、文書課用 / 第六三二番 用度係、分析所用 / 第三三一番 臨時建築部用

本店 東京市日本橋區兜町

內地支店 大阪、京都、橫濱、神戶、名古屋、四日市、下關

兵庫、伏見、大阪西區、東京新大阪町

出張所

韓國支店 釜山、元山、鎭南浦、木浦、群山、平壤

仁川、開城、城津、成興、馬山、鏡城

出張所

大邱、

淸國 安東縣出張所

右の外內外各地重要なる場所には爲替取引先あり營業事務に關する御用向は當店營業課長に御相談被下度候

桶類 製造大安賣

明治町一丁目橫町通

矢野商店

土管瓦煉瓦

土管 瓦 煉瓦

陶榮商店の販賣する土管は模範的工場に於て最新米國式機械を以てし知名技師の注意周到なる監督の許に精製せられたる最良品なり

陶榮商店の販賣する瓦は同工場最新米國式機械製品にして酷寒耐久には重き注意を加へられたる最良品なり

陶榮商店の販賣する煉瓦は同工場最新米國式機械精製品にして他に卓越せるは當販賣元の最も誇こする良品なり

右特約一手販賣仕候間多少に不拘御用命奉願候

陶磁器卸小賣 官製煙草元賣捌 土管瓦煉瓦販賣元

京城本町二丁目

陶榮商店 電話百十三番

東京高等

開業

改良

貸席 春城家

大和町一丁目(京城日報前)

諸官衙御用品調達

營業科目

和洋紙類 印刷附屬品 印刷インキ 和洋書籍 防腐テシン 穀物食鹽 諸染料類 各學校御用品調達

委託販賣

東京ランバーグ商會代理店

東京中外アスフアルト株式會社代理店

東京千代田生命保險相互會社代理店

藤田合名會社

東京博文館發行書籍特約店

東京金港堂發行書籍特約店

釜山臺鹽合資會社食鹽特約店

本社 京城明治町二丁目 電話二三〇番

出張所 東京京橋區南鍋町一丁目十番地 電話新橋三九六二

男女生徒募集

簿記學速成教授 規則書郵券二錢

但一人每に教授す何時入學するも差支なし

新式 **官廳簿記學教科書** 代五十錢

京城壽町二の三七 統監邸下

京城簿記學校

東洋總代理店

實用石鹼 アイボリー

京城支店 原京

電話 賣壹八〇 九四番

西洋料理

京城壽町二丁目

にしき支店

電話七百二十九番 出前仕候

移轉廣告

今般業務擴張の爲め左記の處へ移轉す

南大門外御成町紅葉舘跡(茂昌運送店前)

五月 開通

戶田病院 電話九三八番

衛生無害 **金水舍製ラムネ、ラムネ、ミカン水**

昨年の通り純良なるラムネ、ミカン水製造販賣仕候間陸續御愛飲を乞ふ

京城大和町二丁目

漢城製藥所長藥劑師 **渡邊悅之輔**

京城曙町(電話二八七番)

統監府御用 宮內府御用

軸物表裝 金銀屛風 額面櫬式 壁張天井張

石川表具店

諸傘並に提灯類

印入 和洋蠟燭あり

京城明治町一丁目

大島商店

夏物澤山新荷着に付大勉強販賣仕候

歐米雜貨並 諸官衙御用達

京城本町二丁目

四ヶ所商店 電話三二一番

東京瓦斯株式會社製劑

消毒防臭用 **クレシン** 一磅入 金廿五錢

但百磅以上は特に割引可仕候

待合 醉月

京城旭町二丁目 古屋城横 名町丁目

開業御披露

御料理 稻の家

京城南山町三丁目(掬翠樓隣)

電話千百十六番

消毒殺菌 元祖 **牛乳**

京城大和町壹丁目

千山牧場 電話一三三

開業御披露

貸席 待合 入船

南山の風景を眼前に眺め浴場の設備あり

南山町一丁目坂上

特約販賣自製

大上商店

漬物 味噌 醬油 製造元

京城本町五丁目

和洋酒、回精酎、穀物麵類、銘茶、罐詰、乾物荒物、食料雜貨、ビール、米糀、壇辛各種特約販賣

尙御望に依り商品切手調進仕候

(電話二五一番)

特定御用

千山牧場? 電話一〇五六番

▲**淸潔の下宿**▼

客室の淸潔こ調理の美味こ御扱の懇切こを特色こして下宿營業仕候間賑々敷御投宿の程御願申上候

壽町二丁目十番戶橫小路(元花屋跡)

▲**懇切の下宿**▼

かめ屋

◎**氣候變化** 牛乳

◎**牛乳** 純良 消毒

韓國畜產株式會社

南大門外(電話八八番)

銀行一般業務精々御便利に取扱可申候

資本金 壹百萬圓

積立及繰越金 八拾萬圓

京城南大門通

株式會社十八銀行京城支店

(電話四二〇)

本店 長崎市築町

支店 出張所 大阪、熊本、京城、龍山、仁川、木浦、釜山、元山、群山、五島、壹岐

韓國 日本

其他日本、韓國樞要地及淸領滿洲に爲替取引先あり

貯蓄預金

一口壹錢以上何程にても御預り申候

(利息日歩壹錢四厘)

長崎貯蓄銀行代理店

(十八銀行京城支店)

日本郵船株式會社

瀛船出帆廣告

仁川海岸通

貨物及船客取扱店

郡回漕店 電話二九番

●釜山長崎門司神戶行 六月 六日午後三時出帆

●大連、太沽、牛莊行 高砂丸 五月二十七日正午時出帆

●大連、太沽、牛莊行 山東丸 五月二十五日前五時出帆

●大連、太沽、牛莊行 酒田丸 六月 十七日正午出帆

●釜山出帆、元山、淸津、浦鹽行 立神丸 五月二十六日午後

御注意 御乘船ノ際ハ税關波止場ヨリ本船迄御送迎可申候送迎艀ハ本船出帆ノ約五十分前ニ解纜ノ事

●新聞代 一ヶ月金三十五錢 三ヶ月金一圓 六ヶ月金一圓九十錢

●廣告料 五號活字十九字詰一行金五十錢

發行所 京城 ○○ 京城新報社 電話 六三番